

多国間学生交流プロジェクト MIS

2014 年度年次報告書

目次

1 代表挨拶	3
2 創設者挨拶	4
3 団体概要	6
3-1 理念	6
3-2 目的	6
3-3 団体組織図	6
3-4 ファシリテーション部門活動紹介	7
3-3 ネットワーク部門活動紹介	7
4 団体沿革	10
5 事業報告	11
5-1 渡航報告	11
カンボジア春視察渡航(2015)	11
ベトナム 6 月視察渡航(2014)	18
ベトナム夏渡航(2014)	19
ベトナム春渡航(2015)	22
フィリピン夏視察渡航(2014)	24
フィリピン春渡航(2015)	26
インドネシア春渡航(2015)	29
ミャンマー春渡航(2015)	31
5-2 プロジェクト報告	34
断捨離プロジェクト	34
Experience Japan プロジェクト	35
5-3 提携先の声	36
6 運営報告	37
6-1 普段の活動	37
5-2-2 会計報告	38
7 協賛企業	40



8 役員名簿(2014 年度)	40
9 ご協力のお願い	41
10 連絡先.....	41



1 代表挨拶

私たち MIS はいわゆる国際協力学生団体の 1 つですが、皆さんは「国際協力学生団体」と聞いてどのような活動を思い浮かべるでしょうか？ 途上国に学校を作る、本を送る、コミュニティの自立を促す...様々な形があるでしょう。私たちもこのような活動を東南アジアの各国で行っていますが、特に大事にしているのは、その国の学生とやること、学生が活動を通じて社会貢献意識や問題解決能力を身につけることです。これから社会を担っていく学生の成長こそがその国の自律的、継続的な発展をもたらす。そう考えています。

これは途上国に限ったことではありません。「日本には明るい未来が保証されている」と考えることはもはや難しいでしょう。「課題先進国」と呼ばれるように、途上国と状況こそ異なれ同様に困難な問題に直面しています。この新たな局面において、私たち日本人学生もまた成長を求められています。

MIS の活動は先進国日本による途上国への一方的、直接的支援ではありません。国を越えて学生たちが各国の抱える社会問題に真剣に取り組み、共に成長していく。そうして成長した学生たちが社会で価値を生みだす。私たちはそういう仕組みや場を作り、大きくし、残していくと同時に自分自身も成長していくことを活動としています。

まだ MIS は小さな団体ですが、2012 年の設立から着々と成長しています。当初 10 名程度だったメンバーも 50 人に、交流のある国もカンボジアのみだったところから 6 か国にまでなりました。これからさらに多くの人、国を巻き込み大きな影響力を発揮していきます。

ここまで MIS を支えてくださった全ての人に感謝し、そして今後のさらなる発展を約してご挨拶を終えたいと思います。

2014 年 1 月

代表 丸山倫太郎



2 創設者挨拶

MIS 設立の根本の動機は2011年夏ミャンマーで経験した衝撃にあります。政府関係者の高級住宅が立ち並ぶ通りのすぐ隣にはスラム街があり、スラムの人々はその貧困ゆえに家畜と寝床をともにせざるをえない状況でした。これまで日本の恵まれた環境でぬくぬくと育った自分にとってその惨状はあまりに衝撃的であり、今でも目に焼き付いています。

世界では日本のような環境は希有であり、ミャンマーで目の当たりにしたような状況がまれでないことを身をもって体感しました。この経験を経て国際支援に興味を持つようになり、学生の自分にもできる、自分ならではの支援のあり方とは何なのか模索しました。2011年12月国際支援の多様な形態を学ぶため世界各国から支援が集まっているカンボジアを訪れた際、タヤマ実践カレッジに足を運びました。帰国後、タヤマ学生との交流が自分の中で非常に印象強く残り、彼らとともに新しい未来を切り開いていきたい、学生同士が協力し合い、自分たちで考えた独自の支援を行うことによって社会に貢献していきたいと考えるようになりました。そしてこうした学生同士のネットワークを世界に拡大し、様々な国で学生による社会貢献活動を広めることで、学生同士の交流によるネットワークを駆使した国際支援を実現させることを目標に2012年1月 MIS を設立しました。

現代におけるインターネットの普及、ソーシャルメディアの発達はグローバル化を促進し、私たち個人と世界との距離は縮まっていく一方です。個人と世界との結びつきが強くなった今だからこそ、社会貢献意識の視野を世界に広げ、学生でも世界に対して積極的に働きかけることが大切だと考えています。

国を超えて学生同士がつながり、それぞれの独自の価値観を持ち寄ることで生まれるダイナミックな議論を通じて、「学生という立場から、学生だからこそできる社会貢献プロジェクト」を計画、実行することが私たち MIS の使命だと考えています。この使命に則り、2012年夏にはカンボジアの学生との共同教育プロジェクトを成功させました。

学生という立場でも国を超えた協力を通じて世界に対してインパクトを与えることができるのだという強い信念をもって、今後私たちはさらに様々な国へネットワークを拡大し、世界的な視野を持って社会貢献活動に尽力を尽くしていきます。

2012 年 10 月

共同創設者 長谷川太希



私たち MIS は、国を超え、文化・育ってきた環境・生活あらゆる面で異なる学生同士の交流・議論によって、多角的な視点から課題を発見し、解決策を生み出し、実施することを目指しています。

学生主体の組織であるため、学生との協力・共創という点に焦点を絞り、世界中の学生と切磋琢磨していきたいと考えております。

議論と実行を伴う PDCA サイクルを迅速に回すことにより、活動の対象となる現地の子供たち等、協力する現地学生、MIS メンバー、我々をサポートしてくださる方々すべてが、満足と感動を得られるような活動を続けていきたい。そんな思いで日々活動しております。

新しいこと、もの、人への弛まぬ興味。自分と異なる他者の受容。常にこれを意識しつつ、微力ながら社会へ貢献し続けることができれば本望です。

2012 年 10 月

共同創設者 谷雄太



3 団体概要

3-1 理念

Seed the future, Lead the world

~Pave the way for a brilliant future~

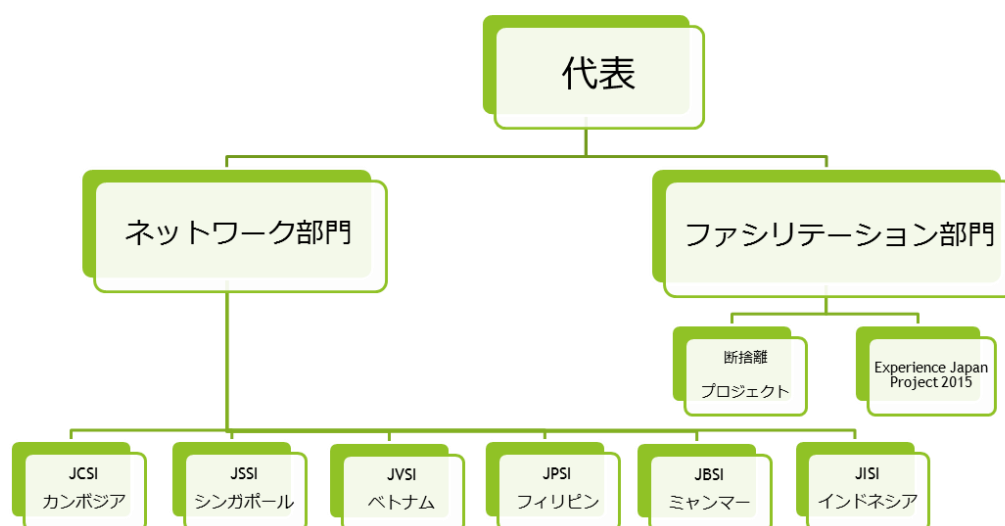
MIS の理念はこれからの将来を担っていく我々学生が、明るい未来を切り開き、国の垣根を越えて世界を引っ張っていく存在となっていこうとする精神を謳っている。

3-2 目的

社会に対して主体的・積極的に貢献することのできる次世代リーダーの輩出

MIS の目的として、自国の社会と自ら向き合うことでその社会に孕む問題を見出し、社会をよりよくする為にその問題解決を行う姿勢と能力を持った人材へと成長することを掲げている。

3-3 団体組織図



3-4 ファシリテーション部門活動紹介

ファシリテーション部門は、組織運営を担うバックオフィスにあたる部門である。ネットワーク部門の事業が円滑に進むよう、人材・資金の管理や広報を担当している。活動は大きく外務と内務に分けられる。

外務の主な活動は、渉外活動である。MIS 外部の方へ MIS の理念や活動内容をご説明し、ご理解・ご協力をお願いしている。今年度も数社の企業様や財団様から、温かい応援やご支援を頂いた。内務では、勉強会の開催を主な活動としている。沢山の学生団体がある中で独自のインパクトを持ち続けるため、MIS では内部の専門性として英語力・コーチング・プロジェクトマネジメントの 3 つのスキルを掲げている。ファシリテーション部門では、これらのスキルをメンバーが高めていけるよう、勉強会の企画・運営を行っている。

また、年度ごとの総会の開催など、特定非営利活動法人としての手続きも行う。この他にも、その時々で組織に必要とされる活動を行い、組織体制の強化に努めている。

さらに今年は、創設代の卒業に当たる年ということで、創設代の生の思いや雰囲気をこれからの MIS メンバーに伝えるため、DNA ブックを作成した。ハード面の整備のみならず、団体全体の文化を維持・継承していくのも、ファシリテーション部門の大事な役割である。

2014 年 3 月

ファシリテーション部門長 内藤美織

3-3 ネットワーク部門活動紹介

3-3-1 ネットワーク部門概要

ネットワーク部門は、その名の通り、国内外の学生団体と協力関係を築き、プロジェクトの計画、運営を担当する。具体的な手順としては、まずネットワークを築く相手国を定める。次に、プロジェクトを行うチームを組織して、プロジェクトを共に行うカウンターパートを探す。そして、実際にプロジェクトをカウンターパートの団体と協議しながら計画し、実際にその国に訪れて計画を実行する。これまでのところ、カンボジア、シンガポール、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、インドネシア、バングラデシュの 7 カ国のプロジェクトがある。今後、このネットワークは ASEAN 加盟国すべてに広げていく。このように、ネットワーク部門の中にはいくつもの国別プロジェクト存在する構造になっている。そのプロジェクト間の情報を共有し、計画を円滑に進めるために、月に二回ほど各プロジェクト長と部門長が集まってミーティングを行っている。



3-3-2.ネットワーク部門紹介

【JCSI チーム】 人数:9 名 結成時期:2012 年 4 月

プノンペン市内に所在する日本語学校タヤマ実践カレッジとともに、農村部の教育環境改善事業に取り組んでいる。過去 3 年間に於いて 3 回コンポンチュナン州ブラサット村に赴き、小学校の卒業率向上を目指した環境整備や授業を行っている。2015 年 9 月には 4 回目となる教育プロジェクトを実施するが、プロジェクトの効果を高めるため、さらに MIS の理念である「自国の問題を解決する人材の育成」を実現するため、タヤマ実践カレッジの生徒が中心となって村の問題発見を行い、解決策を考えるフィールドワーク同時に実施する予定である。また、メンバーの国際協力への理解を深め、本事業に活かすためにカンボジア国内で活動する団体(NGO・日系企業)への訪問を積極的に行っている。

【JVSI チーム】 人数:6 名 結成時期:2013 年 5 月

JVSI とは、Japan and Vietnam Students Interaction の略称であり、このチームはベトナムの学生との国際交流プロジェクトの議論と実行を担っている。2013 年 8 月と 2014 年 6 月に視察渡航を行いタムジャンラグーンの水質汚染を見に行った。環境改善のために 2014 年 9 月に現地のフエ農林大学の教授と English Club の生徒とともに湖畔の小学校で環境意識を改善するためのプロジェクトを実行。2015 年 3 月に再度渡航を行い再び環境改善のためのプロジェクトを同じ小学校で行った。提携先の生徒とはとても深い関係性を築けている。

【JSSI チーム】 人数:7 名 結成時期:2013 年 5 月

JSSI とは、Japan and Singapore Students Interaction の略称であり、このチームはシンガポールの学生との国際交流プロジェクトの議論と実行を担っている。カンボジア教育プロジェクトにシンガポール人を公募して、選考のうえに招待し、日本人、カンボジア人、シンガポール人の三者による Multilateral Project を実施した。その一部のメンバーと 2015 年度の金沢観光プロジェクトに取り組む予定である。

【JPSI チーム】 人数:7 名 結成時期:2014 年 3 月

JPSI とは、Japan and Philippine Students Interaction の略称であり、このチームはフィリピンの学生との国際交流プロジェクトの議論と実行を担っている。2014 年夏には初めてのフィリピン渡航を実施した。この視察渡航ではデラサール大学・フィリピン大学の人々と交流し、社会問題に関するディスカッションを交わした。2015 年にはプロジェクトを実施。デラサール大学の NKK と共に小学校で環境教育のプロジェクトを実行した。



【JBSI チーム】 人数:9 名 結成時期:2014 年 1 月

JBSI とは、Japan and Burma Students Interaction の略称であり、このチームはミャンマーの学生を対象とした国際交流・国際協力プロジェクトの議論と実行を担っている。新たに 4 名のメンバーが加わり、2015 年 3 月には MIS メンバー 7 名が視察渡航を行った。この渡航では現地の日本語を学ぶエリンクラスや、現地の小学校を訪ねて社会問題についての議論を行った。これよりさらに議論を深め、2015 年夏にプロジェクトを行う方針である。

【JISI チーム】 人数:15 名 結成時期:2014 年 6 月

JISI とは、Japan and Indonesia Students Interaction の略称であり、このチームはインドネシアの学生との国際交流プロジェクトの議論と実行を狙っている。2015 年 3 月に視察渡航を行い、インドネシアアチェ州における防災制度、防災教育、また災害時の物流のシステムについて見て回った。シアクアラ大学の防災科学を専門とする院生団体 HIBEUNA と提携し、2015 年夏、地域の総合的防災意識の向上を狙う初回プロジェクトの実行を目指す。



4 団体沿革

- 2011 年 12 月: 発足、JCSI、ファシリテーション部門設立
- 2012 年 9 月: カンボジア渡航
新規ネットワーク部門設立
- 2013 年 4 月: 2 期加入、それに伴い新規ネットワーク部門に S,P,V を設立
7 月: NPO 法人格取得
8 月: カンボジア渡航、プロジェクト実施
ベトナム視察渡航
シンガポールへ視察を兼ねた旅行
9 月: JCSI、新規ネットワーク部門を統合、ネットワーク部門へ
- 2014 年 3 月: カンボジア、ミャンマー、ベトナムへの視察渡航を行う
4 月: 3 期加入、それに伴いネットワーク部門に JISI 設立
8 月: カンボジアにて初の MP 実施
9 月: ベトナム渡航、プロジェクト実施
渡航後に JDSI 発足
- 2015 年 1 月: ネットワーク部門、プロジェクト部門と改称
- 現在 大幅な組織変革の中で成長期に突入



5 事業報告

5-1 渡航報告

5-1-1 カンボジア

日程: 2014/7/30～8/3

場所: プノンペン、コンポンチュナ

参加者: 日本人 (MIS メンバー) 24 人、シンガポール人 14 人、カンボジア人約 200 人

概要: 日本・シンガポール・カンボジアの3カ国の学生で協力しカンボジアコンポンチュナ州プラサット村の小学校において教育プロジェクトを行った。プロジェクトの他にも観光、大学訪問、孤児院訪問、レクリエーションなどを行い、多国籍の学生が集まり普段あまりできない経験をする中で親睦を深め、次世代リーダー意識を相互に醸成した。

スケジュール

7/30 午後: シンガポール人、日本人がプノンペンに到着

夜: Welcome dinner

7/31 午前から午後にかけて: 4つの班に分かれてプノンペン市内を観光した

夜: タヤマ実践カレッジにて3カ国学生レクリエーション、日本語授業を行う

8/1 午前: 2班に分かれそれぞれプノンペン大学・孤児院を訪問

午後: 翌日からのプロジェクトの準備・ミーティング

8/2 教育プロジェクト1日目

8/3 教育プロジェクト2日目

夜: Farewell Dinner

8/4 帰国



・3カ国学生によるプノンペン市内観光

日時:7月31日、午前9時から午後5時まで。

目的: 小グループで行動することで共通経験を積み上げ、8月2日から行われた農村での教育プロジェクトで円滑なコミュニケーションをとれるようにすること。30日の夕方、初の顔合わせとなったため、まだ上手く打ち解けられておらず、ぎこちない雰囲気であったが、観光以後各小グループで一定の成果が見られたため、この目的は達成された。

・日本・カンボジア・シンガポール 3 か国交流レクリエーション

日時:7月31日夜

場所:タヤマ実践カレッジ

参加者:日本人 10 名程度、シンガポール人 14 名、カンボジア人 30 人程度

目的

- ① ゲームを通じて日本人、カンボジア人、シンガポール人の 3 者が打ち解けられるようにする。
- ② それぞれのグループが担うグループごとに与えられた資源の格差が貿易を不可欠なものにするということ、そして貿易を通してさらに格差が広がることもあるということを体感する。(貿易ゲーム)



内容

日本語学校であるタヤマ実践カレッジでは日本語が話せないシンガポール人が手持ち無沙汰になってしまうため、英語が話せる学生を集めて日本人メンバーが日本語の授業と同時並行して3カ国学生でクメール語講座、貿易ゲームを行い、親睦を深め 8/2, 3 のプロジェクトに備えた。

クメール語講座:3カ国の学生が混在するグループを 1 グループ5人程度で作り、挨拶などの簡単なクメール語をカンボジア人学生から教わった。

貿易ゲーム:3カ国の学生が混在するグループを何個か作り、それぞれがアジアのどこかの国の役割を担う。ゲーム終了まで自分たちの国がどこであるかは明かさない。紙で作る図形を商品と見立て、グループごとに作った商品を銀行係に持って行って疑似通貨に換金することができる。グループごとに割り振られた人数、ハサミや定規、鉛筆、紙などの道具の数が異なり不足しているものを他のグループとの交渉で「貿易」によって手に入れることが求められる。最終的に最も疑似通貨を稼いだグループの勝利となる。結果発表後、それぞれのグループの国をクイズ形式で発表した。



結果

各グループは協力する中で国籍に関係なく打ち解けられた様子であった。また、各国間の貿易も活発に見られ、ゲームは順調に進行した。最後のクイズも適度な難易度であった

・プノンペン大学日本語学科訪問

参加者: MIS 所属の日本人 6 人、シンガポールの大学生 5 人、タヤマ日本語学校生 5～10 人程度、プノンペン大学日本語学科生 10 人程度

日時:8/1(Fri) 09:30～11:00

場所:プノンペン大学

1. シンガポールメンバーからの自国紹介
2. 日本人メンバーからの MIS の活動についての紹介
3. プノンペン(カンボジア)で身近な社会問題に関する議論
4. 集合写真・今後の提携のための連絡先の交換

・教育プロジェクト

★計画

・2012 年、2013 年に引き続き、2014 年 8 月 MIS は 3 回目の教育プロジェクトをカンボジアで行った。今回も前回と同様、カンボジアの日本語教育学校であるタヤマ実践カレッジの生徒と協力した。

・今回のプロジェクトでは、タヤマ実践カレッジ側と共にプロジェクトの基盤を作るため 2014 年 3 月に MIS メンバー数人がカンボジアに渡航し、タヤマ実践カレッジのプロジェクト担当チームである教育チームとプロジェクトに関する会議を行い、カンボジアの小学校に存在する問題や今回の教育プロジェクトの目的などについて話し合った。その結果、解決すべき問題として、物が不足していること、非衛生的な環境であること、子どもたちの勉強や将来に対する意識が低いこと、が挙げられた。さらにこれらの問題を踏まえ、今回のプロジェクトでは楽しい授業を行うこと、子どもたちに自分の将来の夢を持ってもらうこと、勉強するとどのような良いことがあるか教えること、といったポイントを設定しこれらに沿った授業を行うことになった。また環境改善のため、小学校に図書室を作ることも決定した。



・4月以降は、上記を踏まえプロジェクト憲章を作成、授業内容やプロジェクトの評価方法などについて MIS メンバーで話し合いを進めた。MIS とタヤマ実践カレッジ双方で話し合いは行われ、話し合いの結果まとまった意見を互いに伝えるという形でプロジェクト詳細を決定していった。上記の問題意識や目的、実現可能性を考慮した結果、プロジェクト1日目は図書館作り・校庭美化・畑作りなどといった学校の環境整備、農村で暮らす家庭の現実を調べるための家庭訪問を行うこととなった。またプロジェクト2日目は上級生に対しては将来の夢を考えるということを知ってもらうための職業紹介、職業を楽しく覚えてもらうための職業かるたゲーム、環境改善のための衛生教育を行い、下級生に対してはサッカー、かるたといった簡単な楽しい遊び、空気砲実験や水を使った実験といった学びの糸口となるような楽しい授業を行うこととなった。

★テーマ

・目的

子どもたちにより良い人生をおくってもらうための、より良い教育を行う

・解決したい問題と意識したいポイント

①物不足

②非衛生的な環境

③子どもたちの意識

④制度上の不備

の4つがある。今回のプロジェクトでは、①～③の解決を目指す。

また特に③の解決において、(1)楽しい授業を行う(2)勉強するとどのような良いことがあるか教える(3)自分の夢を持ってもらう の3ポイントを意識したい。

★実行

・プロジェクト1日目(8月2日)

対象の小学校の学ぶ環境を向上させることを目的とした活動を行った。物不足と衛生環境にポイントを絞り、参加者は

①校庭を掃除する ②校舎の壁をペンキできれいに塗装する ③花壇をつくる ④学校の塀の壊れている部分を直す ⑤図書館に本を運び入れ装飾をする ⑥野菜を植える

以上6つの班に分かれ3カ国共同で作業を行った。花や本や野菜など、そして設備修繕のための資材はプノンペンで用意し、参加者全体で、共同で出費した。

また、さらにもう一つ班をもうけ、対象小学校のある村の何軒かの家庭に伺って、農村の家庭の現状と教育の学校外部にある問題点について考えるため、いまの生活の様子についてや親子の教育についての意識、子供の将来についての考えをきくアンケート調査を行った。



・プロジェクト2日目(8月3日)

子供たちの勉強に対する意識向上を目的とした活動を行った。この目的達成のために ①楽しい授業を行う ②勉強の意義を教える ③自分の夢を持てもらう の3つのアプローチを設定し、下級生に対しては①を意識してかるたを使った語彙をつける遊び、理科実験、体育の授業を行い、上級生に対しては②・③を意識していくつかの職業紹介を行いそれらについて質問を聞いたり興味のあるものを尋ねたりした。下級生の授業では実験などの目を引く授業が人気であった反面、語彙の授業のように説明によって知識を広げるような授業は困難だった。

・プロジェクト後の帰り道では、JCSI プロジェクトによる学生たち側の変化を確認・調査するためにタヤマスクールの学生とシンガポールの学生に向けてのコーチング・アンケートを行った。



【成果】

・プロジェクトの実行を達成

・計画していた教育プロジェクトについて、必要な道具を準備し、実行することができた。プロジェクト後に行ったコーチングにおいて、カンボジア、シンガポールの生徒双方から参加したことが、農村や地方の生活や教育の実態について知りこれから考えていくのに良い機会となったなどの理由で参加したことに満足する意見がおおむねだった。

・農村の児童に対する教育を実行

・カンボジア農村部の小学生に対して、勉強に魅力を持たせるような授業を行った。成果は目に見えるものではないが、児童は関心を持ったことには熱心な様子で聞き入っていた。

・子供たちに将来の職業についてのイメージを広げるような指導を行うことができた。昨年この同じ小学校において将来の夢の調査をしたところ、ほとんどが農家または教師になりたいと回答し、将来についてのイメージや社会の職業に対する知識が不足しているだろうと考えられた。今回、限られた範囲ではあるが職業を紹介したところ、その他の職業についても興味を示した児童が多く将来や学習に対する意識の向上に貢献できたと考えている。をする聞き込みも行うことができた。



・対象の小学校の施設の向上

・校舎や校庭をきれいにし図書館をつくった。子供たちを学校に行きたいとより思わせることや、きれいになった校舎を与えることで衛生的に生活することへの意識を芽生えさせるきっかけを与えた。

・3カ国間の学生との交流、渡航の経験

・カンボジアの学生は日本語を学んでいる生徒であったが、シンガポールの学生はどちらにとってももともとは関わりのない学生であった。その共通項のないタヤマスクールの学生、シンガポールの学生、そして日本のわれわれ MIS の学生らが議論や行動や一つのプロジェクトの実行を共にすることによって、国境にとらわれない団体でのチームワークの経験をそれぞれの国の参加者が得ることができた。また、プロジェクトについて考える切り口や、実行する際にどこを強調するかという価値観などの交換を通して、お互いに相手の問題意識や考え方を知ることができた。

5-1-2 カンボジア春視察渡航(2015)

・概要

日程:3月5日から3月10日

場所:プノンペン市内

参加者:MIS メンバー7人(1期1人, 3期6人)

スケジュール:

3月6日	午前	JCIA にてお話を伺う
	午後	RULE の学生と議論
	夜	タヤマの授業に参加
3月7日	午前	萌運輸さんのお店を見学
	午後	CJCC のイベントに参加し、お話を伺う
3月8日	午前	キリングフィールドへ観光
	午後	王宮やセントラルマーケットへ観光
3月9日	午前	レオパレス 21 さんと MATES さんを訪問
	午後	休息

・活動報告

JCIA(日本カンボジア交流協会)訪問



目的: 日本の NGO として最も長くカンボジア支援を続けている NGO 訪問により、カンボジアにおける日本人の支援の在り方について考える。

内容: JCIA 理事長 山田二三雄様との面会。JCIA 施設の視察。カンボジア落雁 伊藤公子様へのヒアリング。

RULE (カンボジア王立法律経済大学) 訪問

目的: カンボジア学生が自国の社会問題について抱いている印象や意識を知る。

内容: 日本法教育センターの学生と、カンボジアの社会問題全般について意見交換。

萌運輸・リサイクルショップ「SHIROITORI」訪問

目的: 断捨離プロジェクトで収集した物品が現地でどのように販売されているかを知り、今後の参考にする。

内容: リサイクルショップ内視察。リサイクルショップマネージャー森貞様・萌運輸社長 近澤様からのヒアリング。孤児院訪問。

CJCC (カンボジア日本人材開発センター) 訪問

目的: カンボジアの社会問題を知り、更なる活動の発展のために、新規提携先を探す。

内容: CJCC ジャパンデスクコーディネーター Nam Souteang 様と面会。Kizuna Festival 見学。

レオパレス21カンボジア法人・MATES 訪問

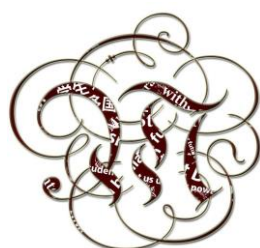
目的: カンボジアの現状について現地企業がどう捉えているのかを探る。

内容: レオパレス21カンボジア法人の小林社長、社員の皆様と面会。MATES 社長 柳内様からのヒアリング。



・渡航成果

既存の提携先である、タヤマ日本語学校との 2015 年夏に計画しているプロジェクトについての話し合いは叶わなかったが、カンボジアで活躍されている日本人の方のお話を伺えたことで、カンボジアの社会問題や日本人によるカンボジア支援、ひいては国際協力・国際交流とは何かということについて、メンバーそれぞれが考えを深める契機となった。また、CJCC 様や MATES 様には、JCSI はもちろん、MIS への協力を視野に入れて頂いた。今後のカンボジアにおけるプロジェクトでは、タヤマ日本語学校との提携をより強固としていく一方で、日本に興味のあるカンボジア学生やカンボジアで働いている日本人の社会人などを巻き込むことも展望として見込める。



5-1-3 ベトナム 6 月 視察渡航(2014)

・目的

ベトナム・フエ近郊の **Tam Giang Lagoon** 周辺では、住民の環境意識が低く、不法投棄が多いこともあって水質汚染が進行している。水質汚濁は地域の景観や生態系に悪影響を及ぼし、住民の健康にも害を及ぼしかねない。この問題を解決するために、MIS とフエ農林大学(HUAF)は共同でプロジェクトを行っている。このプロジェクトはラグーン周辺の小学校における環境教育のプロジェクトとして具体化され、2014 年 9 月に実施されたが、本渡航はそのプロジェクトに向けた準備渡航という位置づけで行われたものである。第一の大きな目的は、プロジェクトに向けて必要な作業を進めること。プロジェクトに対するニーズを把握するための水質調査や住民への聞き取り、プロジェクト実施地の小学校や地元の行政府に担当者との面会を行った。第二の目的は、提携先の HUAF との関係性をより緊密なものにし、プロジェクトにむけた体制を整えることにあった。

・概要

日時:2014 年 6 月 20 日(金)～24 日(火)

場所:ベトナム・フエ(特に **Tam Giang Lagoon** 周辺)

参加者:MIS メンバー6 名, HUAF 生徒約 10 名

スケジュール:

6 月 20 日	午前	フエへ移動
	午後	HUAF 学生との面会
6 月 21 日	午前	HUAF とのミーティング 水質調査に関するレクチャー
	午後	小学校・地元行政府の訪問 ラグーン周辺での聞き取り調査
6 月 22 日	午前	ラグーンの水質調査
	午後	フエ市内観光
6 月 23 日	午前	プロジェクトに向けたミーティング
	午後	帰国

・渡航の成果

HUAF との関係性が深まったことが最大の成果であった。HUAF 側の参加人数も増え、5 日間の活動を通じてより主体的にプロジェクトに関わってくれるようになった。この渡航には HUAF の English Club の生徒が多く参加してく



れ、その後のプロジェクトにおいて中心的な役割を果たすこのクラブとの関係を構築することができた。プロジェクト準備という点でもかなり進展を見せた。渡航前は、環境教育というビジョンだけはあったものの、必要な準備ができておらず、先の見えない状況だった。しかしながら本渡航で実際に現地を訪問したことで、プロジェクトへの道筋がついた。ひとつは、現地の行政の担当者や小学校の校長先生、ラグーン周辺の住民との面会である。これらの面会で彼らは、我々が予想するよりもずっと好意的に迎えてくれ、プロジェクトにおおむね賛成してくれた。またプロジェクトに関する提言ももらい、それをプロジェクトに取り入れることになった。住民たちが突然の訪問にも関わらず質問に快く答えてくれたのは嬉しい出来事で、プロジェクトのニーズを確認するためのよい材料になった。

5-1-4 ベトナム夏渡航(2014)

・目的

ベトナム・フエ近郊の **Tam Giang Lagoon** 周辺では、住民の環境意識が低く、不法投棄が多いこともあって水質汚染が進行している。水質汚濁は地域の景観や生態系に悪影響を及ぼし、住民の健康にも害を及ぼしかねない。これを改善するため、MIS と HUAF(フエ農林大学)の生徒の共同のもとで環境美化プロジェクトを行う。このプロジェクトは住民に対する啓発活動というアプローチをとる。まず、湖周辺に住む小学生を対象に小学校で環境教育を行い、次に湖岸での清掃活動、ゴミ拾いを行う。小学生に環境への意識を持たせ、家庭からその意識を広げていくこと、またきれいになった状態を残すことで地域に環境保護意識が浸透することを図るものである。その後、継続的に水質調査・住民の意識調査などを行って改善度を評価し、次の対策を考える。このプロジェクトは 2013 年 6 月の渡航以降約 1 年をかけて計画されたものであり、今回が第一回目の実施となる。さらに今回の渡航では、フエでの活動に加えてホーチミンの大学生との交流を行い、MIS の掲げる 3 カ国以上の **Multilateral** なプロジェクト (MP) に向けての、ホーチミンでのコネクションづくりを目的として、ベトナムの社会問題についての議論を行う。

・概要

日時:2014 年 9 月 3 日～11 日

場所:ベトナム;フエ(4 日～9 日)特に **Tam Giang Lagoon** 周辺, ホーチミン(9 日～11 日)

参加者:MIS メンバー20 名, HUAF の English Club メンバー約 20 名

スケジュール:

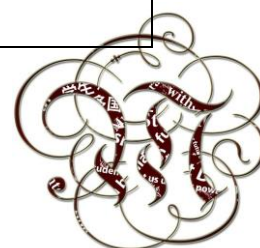
9 月 4 日	午後	HUAF 学生とミーティング
---------	----	----------------



9 月 5 日	午前	小学校, 行政府を訪問
	午後	Thanh Tan Hot Springs
9 月 6 日	午前	プロジェクト準備
	午後	観光
9 月 7 日		プロジェクト
9 月 8 日	午前	地域調査
	午後	反省ミーティング
9 月 9 日		ホーチミンへ移動
9 月 10 日		東日クラブ, 貿易大学とミーティング

・プロジェクト内容

時間	低学年の子たち	高学年の子たち
8:00~8:20	自己紹介・アイスブレイク(拍手リレー)	
8:20~8:35	日本文化について紹介・富士山、侍など 折り紙で魚などを折ってもらう	
8:35~9:00	浄水器を作ってみる(仕組みの説明) 1 教室 25 人のため、5, 6 人のグループ、計 50 グループほどでつくる	
9:00~9:20	紙芝居	
9:20~9:30	休憩 次の企画の準備	
9:30~9:40	アイスブレイク 2(人間知恵の輪)	
9:40~10:00	OX クイズ	
10:00~10:30	理想の川の絵を描いてもらう	折り紙にラグーンを守るための目標などを書いて 大きな画用紙に貼ってもらう



10:30~10:40	アンケート	
-------------	-------	--

・渡航成果

今回の環境教育が有効性・妥当性といった意味でよいプロジェクトだったとは思えない。ただ初回としてひととおリトラブルなく終えられたことは評価していいと思うし、ここがいい、ここがだめとわかったところを次のプロジェクトにつなげていくことができると思う。一度プロジェクトの経験をつんだことで、MIS・HUAF ともにプロジェクトをより深く考えられるようになった。成功であったといっていいだろう。しかし次回以降は今回と同じでは意味がないので、大幅に改善を加えて有効性のあるプロジェクトを作っていかなければならない。

何より各参加者がプロジェクトを心から楽しんでいる様子が印象的だった。子供たちは退屈な様子も見せず、笑顔を見せてはしゃいでくれていた。楽しんでくれなければプロジェクトは続かないと思うので、今回はとてもよかった。また MIS メンバー・HUAF メンバーも、普段あまりない子供たちとのふれあいを存分に楽しんでいた。やっている人が楽しむという、プロジェクトの大前提は達成することができた。



5-1-5 ベトナム春渡航(2015)

・目的

本渡航の目的は大きく2つ挙げられる。まず **2014** 夏のプロジェクトを改善した、環境教育+プロジェクトを行うことである。前回は水質改善を目的としていたがずれてしまったため、今回は環境改善に焦点を当てた。アプローチは前回と変わらない。同じ小学校で午前環境教育、午後にゴミ拾いを行い、まず環境に対する子供の意識を改善してそれから地域全体に浸透させていくやり方である。内容を考えるにあたっては、ECの学生とともにプロジェクトを作り上げることを目指した。そして2つ目の目的は、新規プロジェクトの視察を行うことである。前回の渡航での地域調査を踏まえて新たなプロジェクトとしてゴミ箱設置を考えた。そこで実際に農村に足を運び、住民の方々にインタビューすることで、現状とニーズの把握を狙った。

・概要

日時:2015 年 3 月 10 日~16 日

場所:ベトナム フェ

参加者:MIS メンバー15 名, HUAF の English Club メンバー17 名

スケジュール:

3 月 11 日	午後	HUAF 学生と夕飯, カラオケ
3 月 12 日	午前	カフェでトーク
	午後	農村へ地域調査
3 月 13 日	午前	プロジェクト準備ミーティング
	午後	観光
3 月 14 日		プロジェクト
3 月 15 日	午前	反省ミーティング

・プロジェクト内容

時間	内容
9:00~9:30	日本紹介(ドラえもんを用いて、主に文化の紹介)



9:30～9:50	紙芝居
9:50～10:05	休憩(ECメンバー考案のミニゲームが行われた)
10:05～10:50	リサイクルについて(講義→牛乳パックでジャンピングスネークと一緒に製作)
10:50～11:00	クイズ兼アンケート

・渡航の成果

今回の渡航は2回目のプロジェクトということで、ある程度の見通しと落ち着きを持って臨めると思っていたが、それは甘い考えであった。直前の焦りは前回とほぼ変わらずヒヤヒヤした。それでもプロジェクトを無事終えることができたのは確かである。プロジェクトメンバー全員の協力に感謝したい。行って驚いたのは、小学校の生徒が前回のプロジェクトのことや我々のことを覚えていたことである。さらに毎朝ゴミ拾いを行うようになったとまで校長先生はおっしゃられていた。前回のプロジェクトを含めて、我々の活動の予想以上の影響力と、加えて責任の重さを感じた。今回最も目立ったことは、ECとのコミュニケーションがうまくいったことである。これは今後の活動におい大きな影響を持つし、この関係を保っていきたいと思う。



5-1-6 フィリピン夏視察渡航(2014)

・目的

今回の渡航の大きな目的は今後フィリピンにおいて活動・プロジェクトを行って行くうえで協力してくれる団体を探すためである。また現地の学生と会い、議論をかわすことで日本にいただけでは体感できないようなフィリピンの現状や課題について知り、プロジェクトに活かせるようにすることも重要な目的である。

・概要

[日時] 2014 年 8 月 30 日～9 月 3 日 [場所] マニラ(フィリピン)

[参加者] 大塚理央、岡蒼透、小玉留衣、齋藤遥希、嶋林裕太、谷雄太、西浦早織、縫部 瑞貴、長谷川太希
計 9 名

[宿泊場所] Manila Manor Hotel 住所:1660 Jorge Bocobo Street Malate, Manila 1004 Philippines

スケジュール:

	活動
8/30(土)	日本出発
	(先発:小玉、岡 後発:他)
	18:30 後発組到着 20:00 ホテル着 近くのモールで食事
8/31(日)	9:00 出発 マニラ市内観光(リサールパーク、オーシャンパークなど)
	NKK メンバーとの合流のため Mall of Asia へ
	NKK メンバーと合流、数グループに分かれてモール内を観光 夜ご飯を共にして解散
	夜:ミーティング
9/1(月)	8:00 出発
	デラサール大学に移動し NKK との議論 その後キャンパスツアーへ
	近くのファストフードで共に昼食



	NKK メンバーとともに市内観光(イントロムロス、マニラ大聖堂など)
9/2(火)	午前は特に予定はいれず休息の時間
	Tomo-Kai に会うため一時間バンに乗り、フィリピン大学 Diliman 校へ
	TK メンバーとともにキャンパスツアー その後ディスカッション
	ともに夕食をとりホテルへ戻る
9/3(水)	9:30 チェックアウト 荷物を移動させた後、近くの水族館へ Mall of Asia に移動しお土産購入
	NKK メンバーの家で夜はお別れパーティー そのまま家に泊まらせてもらう
9/4(木)	早朝 4 時頃部屋を出発し空港へ
	フィリピン出国

・活動報告

1 NKK およそ 1 時間半。教育、都市開発、若者という 3 つの分野にわかれて話を聞いた。一つの分野に関して同じグループで話し合ったためより深くまで話を聞くことができた。各グループで話し合ったことはその日の夜のミーティングで共有。

2 TK グループほどに分かれて教育問題について話し合う。お題は事前に TK メンバーが考えてくれたものを 3 つほど。最後に各チームが話し合ったことを共有して終了。

・渡航成果

今回の渡航を総合的に見て成果はあったと考える。まず一番の目的であった現地の学生とのコネクションはうまく獲得できたと考える。NKK と TK というフィリピンでも有数の大学に通う学生とつながりを作れたことは大きな成果と言えるであろう。とくに NKK はほとんど毎日行動をともにしてもらい、メンバー同士、互いにより関係が作れた。次回の渡航でも彼らの力を借りることになる気がする。



また、JPSI メンバーにとっても成果は大きくあったと考える。今回渡航したほとんどの三期にとってフィリピンが MIS として初めて行く海外渡航であった。去年の二期がそうであったように実際に渡航して得ることは大きいはずである。MIS メンバーとしての自覚も芽生えてくるし、現地の学生と様々な議論をかわし、互いの国について教え教わることの面白さに気づいてくれたはずである。来年以降のプロジェクトにおいて主要な役割を果たすことになる三期がそうした経験を積むことができたのはよかった。もちろん渡航直前にメンバーの多忙によりなかなかミーティングができず、フィリピンに行ってから決めることが多かったなど反省をあげ始めればキリはないが、大きな怪我、病気もなく全体的には意味のある渡航にできたように感じる。

5-1-7 フィリピン春渡航(2015)

・目的

デラサール大学の NKK と協力して、小学校で環境教育に関するプロジェクトの実施。子供達にマニラの街をもっとキレイにしたいという意識を持ってもらう。

・概要

日程:2 月 28 日から 3 月 5 日

場所:プノンペン市内

参加者:MIS メンバー7 人(1 期 1 人, 3 期 6 人)

スケジュール:

3 月 1 日	午前	NKK メンバーに会う
	午後	マニラ市内観光(イントラムロス、大聖堂、リサールパーク)
	夜	ロビンソンを回った後ホテルでミーティング
3 月 2 日	午前	デラサール大学でキャンパスツアー
	午後	小学校偵察、NKK とミーティング、MOA で買い出し班に分かれて行動
3 月 3 日	午前	NKK メンバーとビーチへ
	午後	NKK メンバーとビーチへ
3 月 4 日	午前	プロジェクト実施
	午後	交流会



・活動報告

① 環境教育の授業

「目的」

マニラの子供達に、自分たちの街をもっとキレイにしたいという気持ちを持ってもらう。

「概要」

一方的な授業形式ではなく、子供達にかたりかけるような形式の授業を行った。小学校周辺の街の写真を撮ってきて、その写真とそこをキレイにした後の写真を見せ子供達に比較させた。またゴミをポイ捨てした場合どうなるかという内容も含めた。ポイ捨てに関しては全員に1つずつポイ捨てをしてもらい、それがどのくらいの量になるのかを体感してもらうデモンストレーションを実施。

「タイムスケジュール」

事前 マニュアルの作成・配布・読み合わせ

40分 授業

「必要なもの」

デモンストレーション用の紙ゴミ

「結果」

班ごとにかかる時間にばらつきがでてしまった。子供達は熱心に聞き入ってくれた。しかしマニュアルを読むだけになってしまう班もあり、より入念なリハーサルが必要だったのではと感じる結果となった。NKKメンバーとの協力はスムーズに行われた。

② ゴミ箱作り

「目的」

マニラのゴミ箱不足を少しでも解消する。また子供たちが自分たちでゴミ箱を作ることで、ゴミ箱の存在に対する認識が向上し、ゴミをゴミ箱に捨てるようにする。

「概要」



市販の屋外用ゴミ箱(できれば白)を購入し、子供たちが“ポイ捨て禁止”や“みんなで街をきれいにしよう”など、ゴミに関してマニラ市民に訴えたいことを英語とタガログ語で書いてもらう。絵でも可。学校名も記入し、作成したゴミ箱は学校の周囲の道路か、駅等に設置させてもらう。

「タイムスケジュール」

事前 ゴミ箱に学校名と MIS・NKK の名前を明記

10 分 説明(環境に関する授業を受けて、ゴミ箱に街をきれいにしたい願望や市民の人々に伝えたい言葉や絵を書いてほしいこと、またその後ゴミ箱は学校の周囲の道路に設置されることを伝える)

35 分 作成

「必要なもの」

ゴミ箱×3

油性マジック×3

「結果」

三班にわかれて Residuals, Biodegradable, Recyclables の三種類のゴミ箱を作成した。子供たちは思い思いに文字や絵をかいてくれた。また作成したゴミ箱は小学校の前の道路に設置してもらえることになった。一つ反省点としては、事前の調査では主に4種類の分別があるとのことだったが、Michi によると一つは危険物のための分別だということだったので急遽3種類に変更した。しかし実際に小学校に行ってみるとそこには上記3つに加え Dry paper が存在したため、結局小学校の分別に合わせるできなかった。



・渡航成果

デラサール大学 NKK と公式に提携を結ぶことができた。スケジュール調整及び、プロジェクトの準備がぎりぎりまで立て込むことになったが、結果としては多くの小学生との交流や NKK メンバーとの交流ができた渡航となった。また実際に小学校の子供達と共に作成したゴミ箱は、小学校へ寄贈という形になった。以前の視察渡航の時はあくまで NKK とはプライベートな関係性という中での交流であったが、今回はエレーンの尽力により NKK を管轄する教授から直々にオフィシャルな提携を結ぶことになった。これは今後の JPSI の活動の幅を広げる大きな成果となったのではないかな。

5-1-8 インドネシア春渡航(2015)

・目的

JISI としての初インドネシア渡航なので、現地の様々な現状を学ぶとともに、Syiah Kuala 大学の学生団体 (HIBEUNA) をはじめとした多くの人と、よい提携関係を築くことを目的とする。

・概要

日程: 3 月 4 日から 3 月 10 日

場所: インドネシアスマトラ島アチェ州

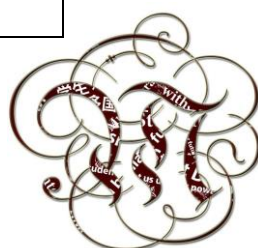
バンダ・アチェ(3 月 4 日から 7 日)

アブヂャ地方(3 月 8 日から 9 日)

参加者: MIS メンバー 5 人(1 期 1 人, 2 期 2 人, 3 期 2 人)

スケジュール:

3 月 4 日	夜	日本出発
3 月 5 日	午後	バンダ・アチェ到着、TDMRC 訪問
	夜	交流会、翌日以降のスケジュールについてのミーティング
3 月 6 日	午前	Syiah Kuala 大学地震津波研究所訪問、ミーティング
	午後	津波被跡訪問、マングローブ視察 レスキューセンター(SAR) 訪問 ビーチ観光



3 月 7 日	午前	津波博物館訪問 小学校視察、マングローブ視察
	午後	ラジオ出演 アブヂャ地方政府の方とミーティング
3 月 8 日	午前	バンダ・アチェ出発
	午後	アブヂャ地方到着 歓迎会、ミーティング
3 月 9 日	午前	魚市場、灌漑施設、魚養殖場視察 アブヂャ政府の方に向けた日本の物流・灌漑などについてのプレゼン
	午後	アブヂャ地方出発、バンダ・アチェ到着 夏のプロジェクトに向けたミーティング
3 月 10 日	午前	民族住居博物館・自然公園訪問
	午後	バンダ・アチェ出発

・活動報告

① TDMRC 訪問

Syiah Kuala 大学の学生団体 (HIBEUNA) との提携を結ぶ際に最初にメールをさせていただいた団体なので、挨拶をしに行った。団体説明やプロジェクト経験について説明していただいた。また、これから MIS と HIBEUNA の提携によってどのような活動が可能になるのか、について助言をいただいた。

② 地震研究所訪問

Syiah Kuala 大学の災害対策を専門とする大学院のシステムや、HIBEUNA のこれまでの活動経歴について説明していただいた。こちらから MIS の団体説明も行った。

③ 津波跡訪問、マングローブ視察

スマトラ島沖地震の際に流された船などがそのまま残っている跡地を訪問した。写真をみて当時の様子について学んだり、実際に被害に遭われた現地の方のお話を伺ったりした。

また、海岸沿いに植えられたマングローブを視察した。

④ SAR 訪問

バンダ・アチェのレスキューセンターである SAR の活動について見学させていただいた。様々な施設や、訓練が行われている様子を学ぶことができた。また、中学生に向けての訓練も見学できた。



⑤ 津波博物館訪問

スマトラ島沖地震の当時の様子や、支援のシステム、その他地震学について知ることができた。

⑥ 小学校視察

小学校ではどのような災害対策が行われているのかの聞き取り調査を行った。プロジェクトを行うことも視野に入れて先生方とミーティングもさせていただいた。

⑦ ラジオ出演

地方のラジオ局で、MIS の活動について、今視察渡航について話させていただいた。

⑧ アブチャ政府の方とミーティング

アチェ地方の歴史について教えていただいた。また、翌日以降のアブチャ地方での活動について話し合った。

⑨ アブチャ地方での活動

災害時を含め、アチェ地方の物流の中心を目指すアブチャ地方の様々な施設を視察させていただいた。また、そうした施設に関する日本の様子を MIS 側からプレゼンテーションした。

・渡航成果

一週間程度の視察渡航であったが、目的を十分に果たすだけの濃い活動ができたと考えている。今回の渡航で得た知識や関係を大事にしながら、夏に向けて、影響力の大きなしっかりとしたプロジェクトを作っていくことを目標に活動していきたいと思う。

5-1-9 ミャンマー春渡航(2015)

・目的

- ①次年度以降プロジェクトを共に行う提携先を決定する。
- ②提携先候補との議論を通して、プロジェクトの形を考える。
- ③ミャンマーの企業・団体を訪問し、ミャンマーに関する知見を得る。

活動としては①学生との交流・ディスカッション②ミャンマーにある企業・団体・施設の訪問の 2 本柱がある。



・渡航概要

参加者:MIS メンバー7 名

提携先候補

エリンクラス:土日にマノランマ僧院で日本語を習っているクラス。大学生から社会人まで在籍。僧院には複数の日本語クラスが存在し、エリンクラスはその中の上級クラスである。

渡航日程:3 月 4 日～11 日

場所:ヤンゴン

スケジュール:

3/4 ヤンゴンに到着

3/5

午後 障害者支援を行っている大学生とディスカッション

3/6

午前 東芝アジア・パシフィック社ヤンゴン支店訪問

午後 IDFC2014 参加者とのディスカッション



IDFC とは International Development Field Camp For Myanmar & Japan Youth Leaders の略で、日本とミャンマーの学生会議。その 2014 年度参加者とディスカッションを行った。

3/7

午前 エリンクラスの生徒とシュエダゴンパゴダを観光

僧院の日本語初級クラスでの交流会

午後 エリンクラスの生徒とのディスカッション

僧院での歓迎パーティー

市内のマーケット観光



3/8

夕方まで エリンクラスの生徒と民族村を観光

夕方 エリンクラスの生徒とのディスカッション

3/9

午後 ジャパンハート訪問

ヤンゴン事務所に少し立ち寄らせていただいた後、児童養育施設の Dream Train を見学

Phaung Daw Oo Monastic Education High School 訪問

3/10 ヤンゴン発

3/11 帰国

・活動報告

①の学生との交流・ディスカッションにおいては、3 団体と面会し、中でも以前からやりとりをしていたエリンクラスとは2 日間にわたって交流とディスカッションを行った。他2 団体とも、ミャンマーの社会問題についての議論を集中して行った。

②の活動においては、東芝アジア・パシフィック社ヤンゴン支店を訪問し、ミャンマーにおける企業の活動と、企業から見たミャンマーの現状について学んだ。また、ジャパンハートのヤンゴンの児童養育施設を見学し、国際協力の活動を視察した。Phaung Daw Oo Monastic Education High School は私立の小学校であり、視察渡航で最後に訪問したため、視察渡航期間中で得たミャンマーの教育問題や民族の問題への関心をさらに深めた。

・渡航成果

当初の目的に関しては、2 日間の交流とディスカッションを通して、エリンクラスの学生たちとの絆を深め、共同して社会問題に対してプロジェクトを行うことを合意するに至った。

また、彼らとの議論の中では、ゴミ問題、教育問題、民族の問題、地方格差の問題、若者問題など多々の問題が出た。特に若者問題や民族の問題に対しては、フェスティバルを行う形で解決するのはどうかといった意見も出た。直接会って議論をして出てきたこれらの意見を基に、彼らとのプロジェクトを今後検討していく。



エリクラス以外の学生との交流・ディスカッションの機会も十分にとることができ、つながりを確かなものにしたと共に、彼らからもミャンマーの社会への問題意識を聞き出すことができた。

ミャンマーの企業・団体訪問においては、従来の MIS の学生としての活動とはまったくことなる分野での企業・団体の活動について学んだほか、それらの企業・団体からみたミャンマーの現状についての知見を得ることができた。



5-2 プロジェクト報告

5-2-1 断捨離プロジェクト

・概要

断捨離プロジェクトは、不要なものが溢れる日本で、まだ使えるが不要なものを集め(断捨離)、ものが不足するカンボジアの子供たちに「必要なものを必要な時に必要なだけ」寄付するプロジェクトである。

カンボジアの子供たちに必要なものを提供し、生活や教育の水準を高めると同時に、日本人の身の回りの不要なものを減らし、生活を豊かにする、ことを目的としている。

・活動報告

平成 26 年度は、8 月、11 月、1 月と物資を集め、カンボジアに届けた。

8 月には、MIS メンバーとその周りから物を集め、JCSI プロジェクトに合わせて直接カンボジアに届けることができた。この時、MP として参加してくれたシンガポール人の学生にも呼びかけ、物を集めてもらい、届けることができた。



11 月には、株式会社萌運輸様のご協力のもと、メンバーの周りで集めた物を、北海道へ送り、コンテナに積んでカンボジアへ届けていただいた。

1 月の配送時には、目黒区立中学校、本郷台中学校の学生さんたちに「断捨離週間」として不要なものを集めてもらい、それを北海道へ送り、カンボジアに届けていただいた。

流通経路が固まり、26 年度からようやく活動を本格化させることができた。これまでは、身の回りの人に声をかけて物を持ちより、届けていたが、今後は、より幅広く不要な物を集め、それを必要とするより多くの人のもとへ届けたいと考えている。

5-2-2 EXPERIENCE JAPAN プロジェクト

・活動報告

Experience Japan Project 2015 は、2014 年夏の渡航を終えた 9 月に発足した。2015 年 8 月のプロジェクト実行を目標に活動が続けている。

当プロジェクトは、日本に関心がありつつも経済的事情により渡航が叶わない東南アジアの優秀な学生に、渡航費等を補助の上日本での1週間程度の研修を行うプロジェクトである。

私たちは、MIS の活動における東南アジアへの渡航の際に、日本に強い関心があるものの経済水準の違いにより来日が難しい学生に多く出会った。同時代同学年の学生であるのに、母国の経済事情により異国体験が得られないのは問題ではないか。そう思ったことがきっかけでプロジェクトの立ち上げに至った。

2014 年度は発足からプロジェクト目標など骨格の設定、内容のアイデアだし、ご協力頂く企業様・財団様へのご協力のお願いを行った。2015 年度は、これまでの議論の結果を実行に移し、東南アジアの学生に良い実地経験を提供できるよう、精進する所存である。



5-3 提携先の声

Lav Srunchhay 氏（タヤマ実践カレッジ教師）

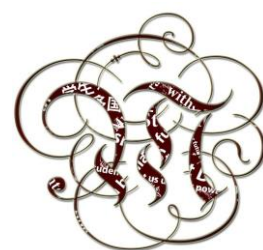
いつも、心より感謝しています。

MIS とカンボジアのタヤマビジネススクールのプロジェクトは 4 年目になりました。カンボジアのこれからの発展していくとともに、欠かせないものは人材、教育だということが分かっていて、2011 年の 5 月に、初めてカンボジアに訪れた谷さんとたいきさんがタヤマビジネススクールで生徒たちと「僕たちはカンボジアという国、また、社会に何かできる」という話題で討論しました。その結果、「教育」はとても大事なことだと思って、カンボジアでの「Khmer Challenge (教育チーム)」と日本の「JCSI (Japan and Cambodia Students Interaction)」が生まれ、今まで、孤児院や郊外の小学校やゴミ山の子供たちに支援したりしています。そういう社会貢献、あるいは、ボランティア活動に参加することによって、カンボジアの若者も自分の国を発展させるための教育の大切さが分かっているし、シェア(分かち合う)の意識も高めるのではないかと思います。日本人の若者にとってもすごくいい体験、また、一つの学び、一つの気づきになると思います。日本が今豊富な国なので、捨てられる使えるものがたくさんあると思います。それをカンボジアの小学生や孤児院の子供たちに支援をしたほうがいいと思います。

毎年一回大きなプロジェクトを行っています。どこにやるかというと、タヤマ学校の生徒の田舎の一つの小学校です。コンポンチューナンという県のプラサック村のプラサック小学校に行って、プロジェクトを行います。プラサック小学校には、カバンがなくて、靴もなくて、文房具がたりなくて、学校に通っている小学生がほとんどです。もちろん、生活が大変で、学校を辞めて、両親の仕事のお手伝いをする小学生もいます。学校が嫌い、学校がつまらない場所などのさまざまな理由で、学校に通いたくない小学生もいます。やはり、そのままの状態だと良くないと思って、MIS とタヤマ学校の生たちが自分たちで文房具や日用品やお金などを集めて、プラサック小学校に支援すると決めました。プロジェクトを行うときに、文房具の配布以外は、衛生教育、夢の大切さ、子供と実験したり、遊んだりします。もちろん、プロジェクトの目的もあります。「学校はつまらない場所を魅力がある場所、すごく楽しい場所だと子供に思ってもらいたい」という目的で思いながら、行います。

プロジェクトを行うたびに、すごく大変で、疲れています。でも、自分が毎回毎回のプロジェクトを行った後の学びや気づきが一杯と感じています。それだけじゃなくて、自分より大変な人、貧しい人、勉強したくて勉強できない子供(人たち)を助けられます。それはすごく小さいことですが、子供たちが学校に通いたい、学校がすごく面白い場所だと感じてくれれば、すごく嬉しいです。たくさんの人材がいればいるほど、国の発展や将来にかかわると思います。まだ助けてほしい子供たちや場所がたくさんあると思いますが、皆さんの力を合わせたら、カンボジアという国も日本のような国になるに違いないです。

ぜひ、今年も来年のプロジェクトに参加し、たくさん協力してください。よろしくお願いします。(原文ママ)



6 運営報告

6-1 普段の活動

普段の活動は、チーム毎のミーティングと MIS 全体が集まる定例会とに分けられる。

チーム毎のミーティングは、大学の休み時間や放課後の時間に週に一回程度行われる。進捗共有、今後の方針決め、タスク割り振りが行われ、実際の活動を進める場となっている。メンバーの都合が合わない時、また東南アジアの提携先との話し合いを行う場合は、Skype での会議開催となる。

一方団体全体が集まる定例会は、隔週の土曜日に約3時間行われ、チーム毎の進捗共有・全社的事項についての議論・諸連絡などが中心となる。チームを越えて MIS メンバー全体が顔を合わせる場として重要な基盤となっている。

上記の日本での活動に加え、春・夏の長期休暇には東南アジア各国への渡航が行われる。渡航は、提携先探しやプロジェクトの打ち合わせのための視察渡航と、実際のプロジェクト実行のためのプロジェクト渡航との二種類に分けられる。各チームは、この渡航を一つの大きな目標として、日々の活動を進めている。



5-2-2 会計報告

2014年度 会計報告書

2014年 4月 1日から 2015年 3月 31日まで

特定非営利活動法人MIS

(単位：円)

科目		金額		
I 経常収益				
1 受取会費				
	正会員受取会費	147000		
	賛助会員受取会費	0		
2 受取寄附金				
	受取寄附金	7233055		
	施設等受入評価益	0		
3 受取助成金等				
	受取補助金	318900		
4 事業収益		0		
5 その他収益		0		
	受取利息	12		
経常収益計		7698967		
II 経常費用				
1 事業費				
	(1)人件費			
	給料手当	0		
	退職給付費用	0		
	福利厚生費	0		
	人件費計	0		
	(2)その他経費			
	会議費	0		
	旅費交通費	7012186		
	施設等評価費用	0		
	減価償却費	0		
	印刷製本費	201505		
	物品その他寄付代	375202		
	その他経費計	7588893		
	事業費計	7588893		
2 管理費				
	(1)人件費			
	役員報酬	0		
	給料手当	0		
	退職給付費用	0		
	福利厚生費	0		
	人件費計	0		
	(2)その他経費			
	消耗品費	63583		
	水道光熱費	0		
	通信運搬費	0		
	地代家賃	0		
	旅費交通費	44096		
	印刷製本代	30842		



		減価償却費	0		
		施設利用費	6000		
		その他経費計	144521		
	管理費計		144521		
	経常費用計		7733414		
	当期経常増減額		-34447		
Ⅲ	経常外収益				
	経常外収益計		0		
Ⅳ	経常外費用				
	経常外費用計		0		
	税引前当期正味財産増減額				-34447
	法人税、住民税及び事業税				0
	当期正味財産増減額				0
	設立時正味財産額				100166



7 協賛企業

協賛企業様(敬称略)

株式会社リーディングマーク

ブルーヴ株式会社

株式会社マグエックス

財団(敬称略)

公益財団法人 三菱 UFJ 国際財団

8 役員名簿(2014 年度)

理事長	丸山倫太郎	東京大学法学部 3 年
副理事長	田澤拓海	東京大学教養学部 2 年
副理事長	内藤美織	東京大学教養学部 2 年
理事	井堀拓郎	東京大学教養学部 3 年
理事	縫部瑞貴	東京大学教養学部 2 年
理事	嶋林裕太	東京大学教養学部 2 年
理事	大塚理央	東京大学教養学部 2 年
監事	小見門宏	東京大学教養学部 2 年
監事	新井理玖	東京大学教養学部 2 年
監事	春日啓秀	東京大学法学部 3 年



9 ご協力をお願い

私たち MIS は 2012 年 9 月にカンボジアを訪問し、日本語を学んでいる現地の学生と協力して農村の小学校で授業を行うなど、様々なプロジェクトを学生ならではの視点を取り入れ成功させてきました。同時にカンボジアの現状を目の当たりにした上での課題、新たに行うべきことも浮き彫りになり、現在新たなプロジェクトの準備にも取り組んでいます。その中の 1 つに農村の小学校の図書館建設がありますが、こちらも団体の理念に反しないよう現地の学生との議論、活動により進めていきました。

私たちはカンボジアだけでなく、東南アジア諸国の学生を中心にアプローチをかけていき、ネットワーク拡大を図っております。現在カンボジア、ベトナム、フィリピンでのプロジェクトの成功をおさめ、さらに拡大を図っているところです。このように様々なプロジェクトを検討していますが、MIS はほぼ学生のみで活動しており、また 2012 年にできた歴史の浅いサークルでもありますので経験や資金に関しては苦労しているのが実情です。

しかし、プロジェクトが実行できずに現地の子供や学生、また国自体の可能性を潰してしまうことは避けたいと考えています。MIS の活動、考えに少しでも興味、共感を持ってくださり、現地の人々のサポートを少しでも行ってきたいと考えていたたける方はどのような些細なことでもかまわないので MIS に連絡を頂けると幸いです。

MIS のホームページで Facebook ページにイイネ!を押していただけるだけでも、活動の支えになりますのでご検討いただけると幸いです。

MIS 一同、微力ではあるかもしれませんが、社会に、そして世界に貢献し今より少しでも良い未来が築ければと心より思っております。何卒よろしくお願い致します。

10 連絡先

お問い合わせ先: mis2012leaders@gmail.com

mis.gaimu@gmail.com(協賛に関するお問い合わせ)

公式 HP: <http://misleaders.org>

